

第4回 大蔵・舞子海岸の空洞対策検討委員会 議事概要

開催日時：令和7年12月11日（木）9：30～
場 所：ビズスペース姫路 5階大ホール

～ 議事概要 ～

（1）議事内容

- 現地調査及び検討で確認できたこと
 - ・ これまでに実施した調査検討結果について
- これまでの調査内容等から推定される空洞要因
 - ・ 空洞発生要因及び対策工実施にあたっての留意点について
- 対策工の提案
 - ・ 対策範囲及び対策工法について
- モニタリングの提案
 - ・ モニタリングの基本方針について
- 今後のスケジュール
 - ・ 今後の委員会開催時期、対策工実施スケジュールの確認について

（2）主な議事

■委員からの助言等

【現地調査及び検討で確認できたこと】 資料－1

- これまでの調査等から、防砂板が確実に設置されているかどうかや、ケーソン上部工・ケーソン本体の境界と、背面の基礎砕石もしくは土砂の層との位置関係などが、空洞発生要因や対策工を考える上で着眼すべき点であると考えられる。

【これまでの調査内容等から推定される空洞要因】 資料－2

- ケーソン目地の内部で波力が大きくなると考えられるため、防砂板の背後は裏込石など径の大きな材料の方が安定し、吸い出されにくいと考えられる。
- 施工中や施工後の情報をしっかりと記録し、保管することが重要である。
- ケーソン背面の施工をする際に、ケーソン本体は施工済であることから、ケーソン目地幅等を考慮した裏込石の石材径や設置範囲などについて、適切に設定すべき。

【対策工の提案】 資料－3

- 採用する工法及びケーソン目地幅に応じて複数の対策工法を使い分ける方針は、妥当である。
- 太平洋側などと比べ比較的波の小さな瀬戸内海では、ケーソン前面に吸出防止材を取り付ける工法も有効であると考ええる。
- 実際に工事を進める中で想定外のことが生じた場合は、柔軟に対応するとよい。

【モニタリングの提案】 資料－4

- 観測孔による計測と合わせ、床版の変状を目視で確認しておくことも重要である。
- 将来、技術開発が進めばモニタリング手法を変更することも検討するとよい。

【今後のスケジュール】 資料－5

※意見等は特になし

以上